

三重県の認知症診療ネットワーク の展開状況報告

三重大学大学院神経病態内科学
富本秀和

平成24年3月30日

三重県は、認知症の専門医療の提供体制を強化するため、「基幹型認知症疾患医療センター」を指定します。

認知症は、誰でも発症する可能性のある病気であり、早期受診・早期診断・早期治療が非常に重要ですがしながら、認知症の診断は初期ほどむずかしく、高度な検査機器と熟練した技術を要する検査が必要であり、専門の医療機関への受診が不可欠です。

このため、三重県では、県内の認知症疾患に対する保健医療水準の向上を図るとともに県全体の認知症医療等の連携の拠点として、新たに、三重大学医学部附属病院を「基幹型認知症疾患医療センター」として指定します

※これまで三重県では、認知症の専門医療の提供や、周辺症状(妄想、幻覚など)と身体合併症(内臓疾患など)の急性期入院治療等を行う「認知症疾患医療センター」として、平成21年4月1日から次の3病院を指定しています。

- 医療法人康誠会 東員病院(東員町大字穴太2400)
- 三重県立こころの医療センター(津市城山1-12-1)
- 松阪厚生病院(松阪市久保町1927-2)

既存の3つの認知症疾患医療センターと連携し、事業を実施することで、認知症の方への支援の充実を図ります。

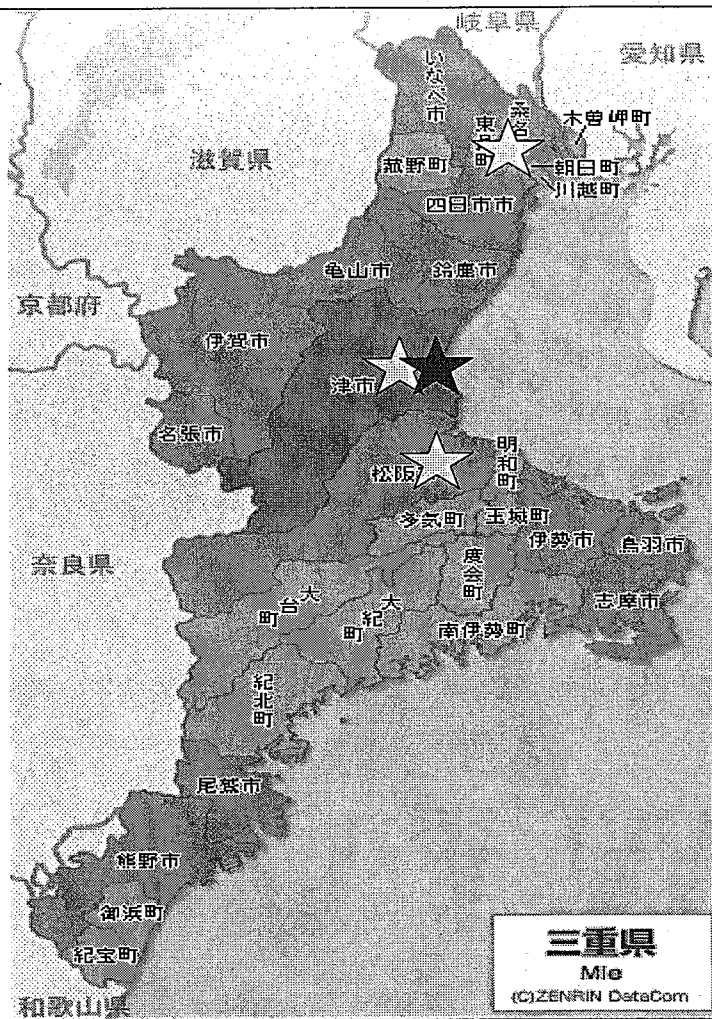
- 1 平成24年4月1日付けで指定する「基幹型認知症疾患医療センター」
三重大学医学部附属病院(津市江戸橋二丁目174番地)

「基幹型認知症疾患医療センター」の主な事業内容

- ・認知症疾患医療センターとの連絡会議の開催等による連携の推進
- ・三重県内の認知症サポート医やかかりつけ医等との連携による認知症医療の充実
- ・身体合併症に対する救急医療への対応

認知症疾患医療センター

- 認知症疾患医療センター(基幹型)
三重大学医学部附属病院
平成24年4月設置
- 認知症疾患医療センター(地域型)
東員病院
県立こころの医療センター
松阪厚生病院



三重県
Mie
(C)ZENRIN DataCom

北勢認知症ネットワーク

第一回 連携会議
平成24年6月23日
於 三重県庁

東員病院(地域型)

三重大学認知症疾患
医療センター(基幹型)

県立こころの医療センター(地域型)

南勢・東紀州認知症ネットワーク

松阪厚生病院(地域型)

中勢認知症ネットワーク
中勢認知症集談会
津地区多職種事例相談会

中勢認知症ネットワーク構想

問題意識

- ◆認知症患者の受診遅延。
- ◆BPSDや重度の認知症患者への対応。
- ◆重篤な身体合併症への対応。

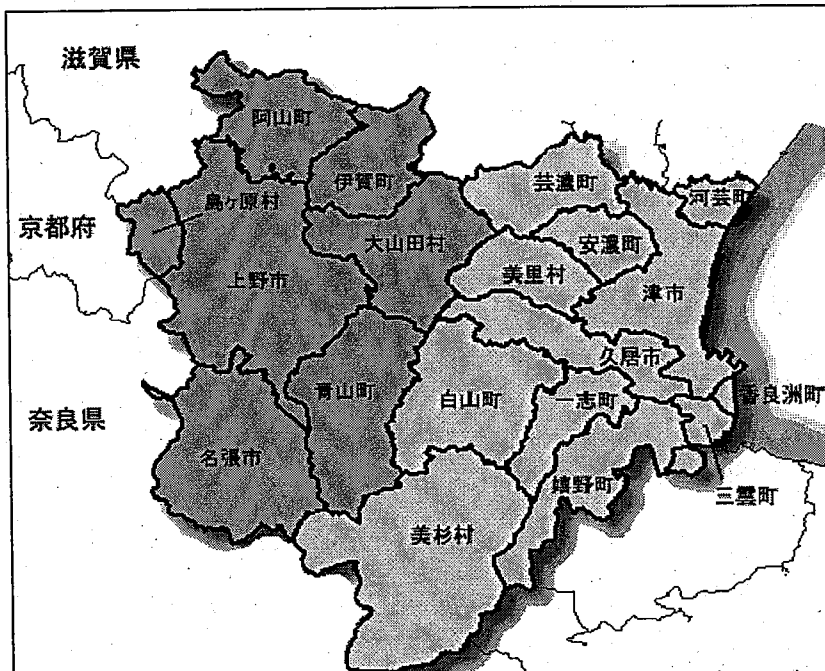
認知症に関わる神経内科・精神科など複数診療科間、医療と福祉の間での協同が不可欠

中勢認知症集談会

- 神経内科・精神科・脳外科等の専門医、医師会、診療所、看護・介護・福祉関連、行政、法律家、患者会代表など
- 地域資源の洗い出し→マップ、リスト作成
- クリティカル・パス作成
- BPSD予防・対応マニュアル作成
- 講演会・市民公開講座の開催
- 事例相談会が派生→“顔”の見える関係

中勢認知症ネットワークとして開始

- 代表世話人:三重大学医学部神経内科教授
- 世話人:
 - こころの医療センター院長
 - こころの医療センター精神科医(診療部長)
 - 三重大学医学部看護科教授(神経内科)
 - こころの健康センター所長
 - 心身クリニック開業医
 - 東北大学高次脳機能疾患寄付講座准教授(当時)
 - 津地区医師会長
 - 久居地区医師会長
 - 久居病院院長
 - 国立療養所榭原病院院長
- 事務局:三重大学認知症医療学講座でH21スタート



津市管内には公表に同意している「認知症かかりつけ医」42名、「サポート医」5名が存在する。
(平成23年9月現在)

管内には9カ所の地域包括支援センターがある
(平成23年9月現在)

21	津市地域包括支援センター	津市	津市	5148611	津市西丸之内23-1 津市役所内
22	津一志地域包括支援センター	津市	(福)津市社会福祉協議会	5152603	津市白山町川口692 津市白山保健福祉センター内
23	津北部東地域包括支援センター	津市	(福)津市社会福祉協議会	5100314	津市河芸町浜田668 津市河芸福祉ほほえみセンター内津市社会福祉協議会河芸支所
24	津北部西地域包括支援センター	津市	(福)明合乃里会	5142325	津市安濃町田塚上野970-3 特別養護老人ホーム明合乃里内
25	津中部西地域包括支援センター	津市	(福)寿泉会	5140826	津市野田2059 特別養護老人ホーム泉園内
26	津中部南地域包括支援センター	津市	(福)洗心福祉会	5140817	津市高茶屋小森町字瓦ヶ野4152 特別養護老人ホームシルバーケア豊楽園内
27	津中部北地域包括支援センター	津市	(社)津地区医師会	5140002	津市島崎町97-1(津地区医師会館2F内)
28	津中部東地域包括支援センター	津市	(福)寿泉会	5140812	津市津築2947(八幡園敷地内)
29	津久居地域包括支援センター	津市	(福)洗心福祉会	5141118	津市久居新町3008平ルタ久居3F 久居ケアサービスセンターシルバーケア豊楽園内

中勢エリアにおける認知症の診療情報リスト(その1)

施設名	物忘れ外来	画像診断設備	連携室 相談室	認知症関連 コメディカル	備考
関連診療科					
県立こころの医療センター	木曜日	CT, EEG	○	OT, CP, PSW, MSW	デイサービス・デイケア
精神科・内科					
三重大学医学部付属病院	新患・火曜日 再診・月、水曜日	CT, MRI SPECT, EEG	○	OT, ST, CP, PSW, MSW	
神経内科・脳外科 精神科(放射線科)					
三重中央医療センター		CT, MRI SPECT, EEG	○	MSW	
神経内科・脳外科 精神科(休診中)					
国立病院機構榑原病院			○	OT, CP, PSW, MSW	クリニック・デイケア
精神科					
久居病院	月曜日	EEG	○	OT, CP, PSW	クリニック・グループホーム
精神科					
榑原温泉病院	金曜日	CT, MRI EEG	○	OT, ST, MSW	通所リハ、ショートステイ、訪 問看護、訪問診療、居宅支援 介護
神経内科 脳神経外科					
吉田クリニック		CT		OT	特養
内科					

OT: 作業療法士、ST: 言語聴覚士、MSW: 医療ソーシャルワーカー
CP: 臨床心理士、PSW: 精神科ソーシャルワーカー

中勢エリアにおける認知症の診療情報リスト(その2)

施設名	物忘れ外来	画像診断設備	連携室 相談室	認知症関連 コメディカル	備考
関連診療科					
榑原白鳳病院		CT, MRI		OT, ST	介護老人保健施設
神経内科					
国立病院機構三重病院		CT, MRI EEG	○	OT, ST, CP, PSW, MSW	三重県認知症在宅ケア支援 ネットワーク整備事業の拠点病院
神経内科					
第2岩崎病院		EEG (岩崎病院 CT, MRI)	○	MSW	通所リハ、ショートステイ (EEG, CT当日予約可能)
精神科・内科					
永井病院		CT, MRI EEG	○	OT, MSW	
神経内科					
武内病院		CT, EEG	○	MSW	
神経内科					
県立一志病院		CT	○	MSW	家庭医療・認知症がかりつけ医 講習終了医師在籍
内科					
鈴鹿回生病院	水曜日 クリニック外来	CT, MRI, EEG SPECT 高次機能検査		ST, MSW	
神経内科					

OT: 作業療法士、ST: 言語聴覚士、MSW: 医療ソーシャルワーカー
CP: 臨床心理士、PSW: 精神科ソーシャルワーカー

第8回 中勢認知症集談会特別講演会

開催日: 平成24年7月21日(土)18:00より

場所: 津地区医師会館 会議室
津市島崎町97-1 TEL:059-227-1775

謹啓

時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、この度下記の要領にて、中勢認知症集談会クリニカルカンファランス特別講演会を開催させていただきたくご案内申し上げます。ご多忙とは存じますが、何卒ご出席賜りたく存じます。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。 謹白

特別講演

座長 久居病院 院長
棚橋 裕 先生

『アルツハイマー型認知症の積極的治療戦略』

順天堂東京江東高齢者医療センター
メンタルクリニック教授 一宮 洋介先生

津市多職種事例相談会(H22年12月発足)

- ・ 事務局は三重大学認知症医療学講座。
- ・ 津地区の9包括支援センターが参加。
- ・ このほか、医師、看護師、薬剤師など多職種が関与する。
- ・ 福祉施設や地域で診療・介護の対応困難事例を持ち寄り、他職種で検討することで問題解決を図るとともに、診療・介護対応力の向上を多職種連携で目指す。
- ・ 年に数回、認知症サポート医フォローアップ研修事業に指定される。

市内各地域包括支援センター長 様

いつもお世話になっております。

先般、三重大学神経病態内科学 冨本教授より認知症医療学講座事業における認知症ネットワーク構築に向けた取組みとして、福祉・介護部門との連携による医療・福祉・介護が一体となったネットワーク構築に向けた地域包括支援センターへの協力依頼がありました。

そこで、今後の認知症高齢者の増加に伴います医療との連携は、欠かすことができないものと考え、医療部門とのネットワーク構築に向けた取組みの一環としてとらえ、同教授が主催する連携勉強会（月1回程度）にできる限り参加する方向で進めていきたいと思っております。

参加対象者としては、三重大学、津地区医師会（認知症サポート医・かかりつけ医等）、こころの医療センター（認知症疾患センター）、地域包括支援センター、事業所関係等が主な参加対象となっております。内容におきましては、事例検討等が中心となる予定と聞いております。

なお、同会は、勉強会である趣旨を踏まえ、同教授とも話をしておりますが、自主参加であり、開催日時等を含め、参加することに支障がないときに自由に参加できるものでありますので、ご承知おきください。

今後の勉強会等の案内につきましては、津市の認知症対策連携業務を昨年度お願いしており、また、本年度も下半期のみではありますが、当該業務の実施を津中部西地域包括支援センターへお願いしたところであり、そこで、認知症医療学講座に係る認知症ネットワークからのお知らせや案内等に係る受信強いては各センターへの発信等を津中部西地域包括支援センターにお願いしたいと考えておりますので、ご理解・ご協力をよろしくお願い致します。

平成22年12月14日

事務担当 津市健康福祉部高齢福祉課
津市地域包括支援センター

平成24年度

第2回事例相談会のご案内

謹啓 皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、下記要領にて平成24年度第2回事例相談会を開催致します。

この会をより顔の見える関係の構築に役立てていただき、多職種の皆様との意見交換や討議の場としてご活用いただければ幸いです。

ご多用中とは存じますが皆様の活発なご議論をいただきたく、ぜひともご参加くださいますようお願い申し上げます。

謹白

記

開催日時:平成24年6月21日(木) 19:00～

開催場所:三重県医師会館(1階 健康教育室)

〒514-8538 津市桜橋2丁目191番4

TEL:(059)228-3822 FAX:(059)225-7801

19時～ 「ご挨拶」中勢認知症集談会代表世話人 冨本秀和
「事務局だより」中勢認知症集談会事務局 木田博隆

19時10分～「事例提示(介護、医療、福祉、行政、法務にかかわるような困難事例など)」

◆ 津一志地域包括支援センター

◆ グループホーム デイサービスセンター 渚園 三吉 由美子 様

生活・介護支援サポーター養成事業

・目的

地域の高齢者の個別の生活ニーズに応じる仕組みを安定的・継続的に構築するため、市民の主体性に基づき運営される新たな市民参加サービス等の担い手として生活・介護支援サポーターを養成し、地域で高齢者の生活を支えるシステムを構築する。

・実施主体

区市町村

・補助内容

国(10/10)

・事業内容

①生活・介護支援サポーター養成研修の実施

市民向けにおおむね20時間程度(講義及び実習)の研修を行い、一定の福祉、介護に関する知識や技術をもった高齢者への生活・介護支援サービスを行うための担い手を養成する。

②高齢者の生活を支えるシステムの構築

生活・介護支援サービスの実践につながるように、修了者に対しても継続的な支援を実施する。

・具体的事業の例

○困りごと相談

独居高齢者等生活上の不便の相談解決支援。

○民間サービスの活用支援

高齢者になじみの薄い宅配サービス利用などの支援

○防犯・防災への注意喚起

警察・消防と連携し、振り込み詐欺、悪徳訪問販売など日常生活を営む上でのリスクマネジメントを支援。

○たすけあい活動の創設

サポーターがチームを組織し、調理・買い物援助、住宅・庭の維持管理、通院・薬局への同行等を生活圏域内で実施。

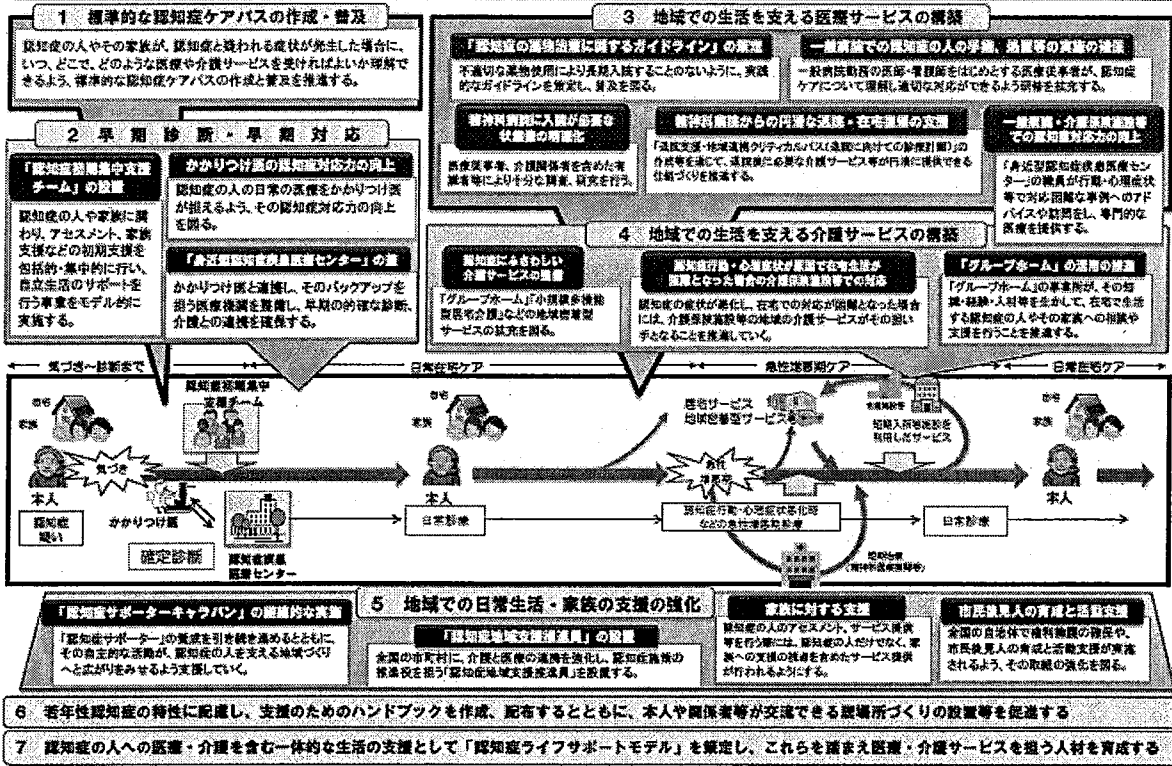
○ふれあいサロン、いきいき喫茶の運営

公民館、空き教室、空き店舗等の活用を図りながら、福祉講座、健康講座、世代間交流等を実施。

『今後の認知症施策の方向性について』の概要

今後目指すべき基本目標「ケアの流れ」を変える

- 「認知症の人は、精神科病院や施設を利用せざるを得ない」という考え方を改め、「認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができる社会」の実現を目指す。
- この実現のため、新たな視点に立脚した施策の導入を積極的に進めることにより、これまでの不適切な「ケアの流れ」を変え、むしろ逆の流れとする標準的な認知症ケアパス（状態に応じた適切なサービス提供の流れ）を構築すること、基本目標とする。



② 「認知症初期集中支援チーム」の設置 (P29 参考資料3参照)

- イギリスなどの例を参考に、看護職員、作業療法士等の専門家からなる「認知症初期集中支援チーム」を地域包括支援センター等に配置し、認知症の人や家族に関わり、自立生活のサポートを行う体制の整備に取り組む。
- このチームは、家庭訪問を行い、生活場面で詳細な情報を収集して本人や家族に対する初期のアセスメントを実施するとともに、本人や家族への認知症の症状や病気の進行状況に沿った対応等についての説明、初期の在宅での具体的なケアの提供、家族に対するアドバイスなどを行い、一定期間、集中的に本人と家族に関わるものとする。また、医師の参加を得て、「チーム員会議」を開催し、ケア方針の決定や医療機関への紹介の有無等について検討するものとする。

【「身近型認知症疾患医療センター」の要件】

- ① 身近な地域に存在する（概ね 65 歳以上人口 6 万人に 1 か所程度）。
- ② 検査体制を有する医療機関との連携によりの確な診断や投薬の適切な管理等を行うことができる認知症の専門の経験を有する医師と臨床心理技術者（兼務可）を配置する。
- ③ 診断後、早期に適切な介護サービス等の支援につなげ、地域で暮らしていけるよう、かかりつけ医やセンターが担当する区域にある数箇所の地域包括支援センター等との連携担当者を配置（兼務可）し、連携体制を築いている。
- ④ 行動・心理症状の増悪による転院や入院を回避する目的として、病院や介護保険施設・事業所への診療相談、往診など（いわゆる地域リエゾン）を行っている。
- ⑤ 診療所又は病院により行われるもの。

ケアの流れを変える(厚生労働省認知症施策検討プロジェクトチーム 平成24年6月)

1. 標準的ケアパス

認知症のひとは施設・精神科病院から地域へ

2. 早期診断・早期対応

認知症初期集中支援チーム

身近型認知症疾患医療センター

3. 地域での生活を支える医療サービス

4. 地域での生活を支える介護サービス

5. 地域での患者・家族支援

「認知症地域支援推進員」、「市民後見人」、「家族教室」、「認知症カフェ」

6. 若年性認知症支援

7. 人材育成